

「小児医療センターにおける小児歯科と多職種連携 および乳歯歯髄幹細胞の魅力」



九州大学大学院医学研究院 臨床医学部門 生殖発達医学講座
小児外科学分野 教授

田口 智章 (たぐち ともあき)

1979年 九州大学医学部医学科卒
1987-88年 カナダ国マックギル大学病理・モントリオール
小児病院外科 留学
1997年 米国ピッツバーグ大学小児病院移植外科 留学
2006年 九州大学大学院小児外科学分野教授 (現在に至る)
2006-8年, 10-12年, 14-18年
九州大学病院小児医療センター長
2007-9年, 13-15年
九州大学病院総合周産期母子医療センター長
2013-5年 九州大学医療系統合教育研究センター長
2015年 九州大学環境発達医学研究センター長
(現在に至る)
2015年 九州大学病院栄養管理部長 (現在に至る)
2018年 九州大学病院救命救急センター長・小児救命救急
センター長・集中治療部長 (現在に至る)

小児医療センターでは多職種連携が極めて重要であり、医師、歯科医師、看護師、助産師のみならず、小児の入院生活の QOL を向上するためにチャイルドライフスペシャリスト、保育士、社会福祉士の参画、プレールーム、院内学級、小児緩和ケアチームの整備なども必要である。小児歯科の先生方には基礎疾患を有する患児の治療や全麻を必要とする小児や障害児の治療において連携を密にしている、全麻下の歯科治療後は麻酔の覚醒の安全上小児医療センターに1泊入院していただき、病棟での主治医は小児科医または小児外科医が担当させていただいている。また臓器移植で免疫抑制剤や小児がんで化学療法が必要な患者は感染管理として虫歯の駆除が必須なので、必ず小児歯科受診している。

また総合周産期母子センターでは、産婦人科、小児科、小児外科に加え小児歯科、児童精神科の5つの診療科が順番に担当して福岡国際周産期シンポジウム (FISPM) を開催し約30年を迎える。この FISPM を機に脱落乳歯歯髄幹細胞 (SHED) の存在を知り、小児歯科学教室、分子口腔解剖学教室との共同研究として小児難治性疾患の新規治療開発に取り組んでいる。

SHED は間葉系幹細胞の一種で、従来捨てる乳歯に含まれ、造腫瘍性のリスクはなく、多分化能、細胞分裂能に優れ、免疫寛容性も有している。現在、指定難病である先天性の消化管蠕動不全や小児の肝疾患や先天性横隔膜ヘルニアの新規治療を開発している。例をあげると難病の腸管蠕動不全である Hyoganglionosis マウスに対して SHED の経静脈投与により腸管神経節細胞の増加により体重増加や運動能改善が見られた。現在、自己 SHED を使った臨床研究の準備を進めている。さらに歯髄幹細胞は、成人でも智歯や過剰歯から歯髄幹細胞を採取できるので、小児のみならず成人の難治性疾患への適応範囲が広がるものと期待される。